

第 1 回伊達市教育振興基本計画策定委員会  
(社会教育部会)  
会 議 録

伊 達 市 教 育 委 員 会

## 審 議 会 会 議 録

会議名称	伊達市教育振興基本計画策定委員会 社会教育部会（第1回）		
議 題	議事 ①社会教育部会の協議スケジュール等について ②「生涯学習」に関する現状と課題について ③「生涯学習」に関する事業実績等について		
開催日時	平成29年6月26日（月） 18：30～20：10		
場 所	市民活動センター 多目的室3		
出席委員	小林浩路 部会長、岩花幸子、猪狩庄市、伊藤成子、伊藤洋子、小倉敬、尾上明美、掃部一夫、佐藤誠、立花和実、寺島雅廣、増岡深雪、渡邊ひとみ（計13名）		
	所管部課名	教育部生涯学習課	
公開 非公開 の 別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	傍聴者の人数	2名
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	
《審議会の概要》  1. 開会（事務局：生涯学習課長）  2. 部会長挨拶（社会教育部会長）  3. 議題 （1）社会教育部会の協議スケジュール等について （2）「生涯学習」に関する現状と課題について （3）「生涯学習」に関する事業実績等について （4）その他 【資料に基づき事務局より説明】 【質疑・意見交換】  5. 閉会（事務局：生涯学習課長）  -----			
《会議録詳細》  1. 開会の挨拶 ●事務局：生涯学習課長  2. 部会長挨拶 ●社会教育部会長  3. 議題 （1）社会教育部会の協議スケジュール等について ●事務局：生涯学習課長			

(2) 「生涯学習」に関する現状と課題について

●事務局：生涯学習課長

それでは、生涯学習分野の現状と課題についてご説明させていただきます。

まず、市町村が生涯学習を推進する理由といたしますかそもそも論でございますが、実は「生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律」という法律がございまして、その第1条の中で「この法律は、国民が生涯にわたって学習する機会があまねく求められている状況にかんがみ、生涯学習の振興に資するため、生涯学習の振興のための施策の推進体制及び地域における生涯学習に係る機会の整備を図り、もって生涯学習の振興に寄与することを目的とする。」と謳われており、この精神に基づき全国どこの自治体でも生涯学習の推進に取り組んでおります。

当市におきましても、様々な事業を展開し、多くの方々に生涯にわたり学習する機会を提供させていただいております。

それでは具体に入りたいと思います。

現計画にも約10年前の計画策定時における各項目の現状と課題が記載されておりますが、ほぼ10年経過しておりますので、今現在の現状と課題とは状況が変わってきております。もちろん今現在に通じる課題もございますが、今回は切り口を変えて、説明させていただきたいと思います。

説明するに当たり、事業を便宜上大きく4つに分類させていただきたいと思っております。

まずは、講座型の事業であります。

何々教室など、実際に何かを作ったり、知識を深めたり、主に趣味の幅を広げたり、深めたりするようなイメージで、毎年度、企画を変えながら開催しております。市民講座がこれにあたります。

続きまして、講話型事業であります。

各分野で活躍をされている方などを講師に迎え、その経験等に基づく講話をしていただき、教養を深めていただくようなものでございます。

具体的に言いますと、第2講座を除くだて市民カレッジや男女共同参画講演会などがこれにあたります。

続きまして、体験型事業になります。

実際に現地に赴き体験をし、知識や教養を深める事業で、だて市民カレッジの第2講座や胆振女性リーダー養成研修などがこれにあたります。また、ちょっとここに分類するには無理があるかもしれませんが、今年度から「放課後子ども教室」という事業も開始しました。

最後に自主企画型事業になります。

内容については、先ほどの講座型や講話型になるものが多いと思いますが、主催が市や市教委ではなく、市民の団体などによるものでございまして、これら自主的な取り組みに資金面や講師の派遣でサポートするものでございます。

マイプラン・マイスタディ事業や宅配講座がこれに当たります。

すべての事業がこれらのタイプですっきり分類できるわけではありません。長生大学は講座型でもあり講話型でもありますが、大まかにはこのように分類できると思っております。

課題等についてももう少し詳しく説明させていただきます。

まずは、講座型でございます。

市民講座で言いますと28年度は8講座を開催し、100名程度の方が受講しており、終了後のアンケートでは概ね好評をいただいております。

課題でございますが、実際に物を作ったりすることなどから、1回の受講者数に限度があり、

1回当たりの受講者数が比較的少ない・増やせないこと、少数定員や人気のある講座の場合、すぐ定員となり受講できない方が発生すること、全て平日日中の開催であることから、お仕事されている方は参加しにくいこと、などが挙げられます。また、主催側としては、毎年度、講座のテーマであるネタの選定に苦労しております。

次に講話型でございます。

例えばだて市民カレッジでございますと、第2講座を除く4回の開催で115名の方に参加をいただいております、こちらも終了後のアンケートでは概ね好評をいただいております。

課題でございますが、市民による実行委員会で企画を立てておりますが、限られた予算内で多くの方に興味を持ってもらうテーマや講師の選定に毎回苦労しているところでございます。

次に体験型でございます。

だて市民カレッジの第2講座については25名、胆振女性リーダー養成研修については2名参加いただいておりますが、どこかに行って体験ということで、参加者には好評ですが、1人当たりでお金がかかる事業でございます。

課題としては、他事業に比べて費用を要するということが挙げられると思います。

放課後子ども教室についてでございますが、29年度からの事業開始ということで、28年度事業実績には載っておりません。本日、追加で資料を配付させていただいておりますので、後ほど担当から少し詳しく説明させていただきます。

最後に自主企画型でございます。

マイプラン・マイスタディ事業については、4団体が利用され、207名の方が参加をされました。

宅配講座についても102回の利用があり、3,303名の受講がございました。

自主的ということで非常にいい事業だと思っておりますが、利用される団体が比較的固定化されてきていることから、多くの団体に制度が理解されていない、PR不足かなと感じており、この点が課題に挙げられると思っております。

長生大学について、でございます。

多くの高齢者の方に学んでいただいております、高齢者の生きがいづくりや仲間づくり、健康維持などに大きく貢献していると思っております、大変有意義な事業だと思っております。

しかしながら課題もございます。まずは学生数です。高齢化社会と言われている今日、高齢者は年々確実に増加をしておりますが、長生大学の学生数は比例して増加してはおりません。やや減少している傾向です。高齢者の中にあっても比較的若い年代の方の入学数が伸びておらず、平均年齢も77.9歳(28.4.1)と高くなっております。

それと有珠長生大学についての今後でございます。現在14名でございますが、更に減少するとなると、存続についても検討しなければならないと考えております。

以上、事業タイプ別に現状と課題をご説明させていただきましたが、全体を通じた共通の課題がございます。

全事業を通じ、女性に比べ男性の参加が少ないことです。例えば市民講座の参加者であれば、およそ9割が女性、長生大学でも、男女比がおおよそ3:7であり、圧倒的に女性の参加者が多く、男性の参加者数の向上が大きな課題となっております。

2点目ですが、大滝区からの参加者が少ないことです。各事業、長生大学も全て

ももとの伊達市内で実施しており、大滝区民の参加が皆無に近い状態でございます。地理的に遠いこと、特に高齢者が参加することは、難しいと思いますが、大滝区民が参加しやすいような、なんらかの配慮も必要と感じております。

放課後子ども教室についてです。

伊達西小学校でこの6月から始めたばかりで、問題を解決しながら軌道に乗せ始めたところであり、課題点はまだ整理しておりません。

来年度以降、実施校を拡大する考えですが、ボランティアの確保が最大の障害かなと感じております。

次に建物のことについて、触れさせていただきます。

お手元にカルチャーセンターの資料を用意させていただいております。

カルチャーセンターも平成6年の供用開始から23年を経過し、いたるところで不具合も見られるところでございます。

維持管理費も増大しつつあることから、本年度から料金を一部改訂させていただいたところでございます。

生涯学習の場としてだけではなく芸術、文化の拠点としても、これから長い間大切に使用していかなければならない施設でございます。

今後、長中期的な改修計画を策定し、計画的な改修を進める必要があると考えております。

また、カルチャーセンターは指定管理者により運営を行っており、貸館業務がメインとなっておりますが、指定管理者自身が市民の社会教育に貢献できること、文化度を高めるようなイベントの開催や利用者が快適に利用できるようなサービスに取り組むなど、より市民に利用していただけるような取り組みを指定管理者とともに考える必要があると考えております。

以上「生涯教育」分野における主だった実情と課題でございます。

次に図書館長から図書館における現状と課題を説明いたします。

#### ●事務局：図書館長

続きまして、図書館の現状と課題について説明させていただきます。

図書館は、図書、地域資料の収集や多様化する利用者に対応した図書などの提供に止まらず、情報発信、課題解決支援、子育て支援、学習活動支援の他、幼児から高齢者まで年代を問わない本を介した市民の居場所としての役割があります。

ハードとその他に分け、事前にお配りした資料に基づき現状と課題を、説明いたします。

初めにハード、施設についてでございますが、本館は昭和55年に建設し、今年で37年経過しました。図書の収容能力は6万冊であり、蔵書として登録のある図書が約11万冊、登録のない寄贈本や地域文庫に配本する図書などは約1万冊ございまして、収容能力を大幅に超える図書に溢れているのが現状でございます。

また、建物の劣化箇所も随所に見受けられ、毎年修繕を実施しながら使用している状況です。特に冬期間は暖房を最大にしても館内は暖まらず、利用者にご迷惑をかけていました。今年度は2階に新たに暖房を設置し、壊れていた天井ファンを修理することで部分的に改善できるものと考えています。

さらに、一般書と児童書の閲覧コーナーが近い場所にあるため、静かな空間を望む利用者と乳幼児を連れた保護者がお互いに遠慮や不満をもつなどといった弊害もございます。

建物の構造上、区分けは困難でありまして、利用者同士のトラブルを避けるため、

見回りや声掛けを行っています。

大滝分室は大滝基幹集落センター内にあります。センター全体の管理を含め、市が社会福祉協議会に委託しており、分室での貸出返却業務も委託業務の一部となっております。本館と分室は毎日、本の受渡しを行っており、連携して業務にあたっております。

今後必要となる本館の大型改修等自体を大きな課題と考えております。関係する市の部署と協議が必要なことから、時間をかけて検討していく必要があると認識しています。

伊達市立図書館運営協力会と伊達市立図書館あり方検討委員会からは、サービスの充実の他、増改築を望む提言が提出されています。

28年度の蔵書数、貸出冊数、利用者数について、蔵書数は年々増加しておりますが、貸出冊数と利用者数は減少傾向にあります。

地域文庫は、本館や分室に来ることが難しい地域の住民に対し、自治会等が管理運営する地域文庫に図書の配本を行うサービスです。

5つの地域文庫の貸出人数は1か月に10名を割っていると聞いています。

伊達、室蘭、登別三市による図書館ネットワークサービスについてですが、三市図書館の蔵書貸出や返却が三市のどこからでも行うことができる仕組みになっています。

また、図書館情報システムを利用することにより、パソコンやスマートフォンで三市の蔵書検索や予約・リクエストを行うことが可能となっており、利用者にとって便利なサービスとなっております。

図書館、地域文庫においても、利用者増加のための方策を考えて行くことが課題と認識しています。

今後は、魅力ある図書館づくりのためのサービスの充実は元より、三市の図書館ネットワークサービスを含む図書館情報の発信を、多くの媒体を通じて行うことが重要と考えています。

昨年度、有識者を含む10名で組織された伊達市立図書館あり方検討委員会から、今後の図書館のあり方について3つの大きな提言がされています。

1. 必要な情報を容易に得られる図書館
2. 市民の居場所となる図書館
3. 本と人を結ぶ図書館

これらの3つの大きな項目を掲げ、そこに様々な意見を頂戴したものです。

今後この提言を受け、基本方針を作成することとしています。

また、19年度から28年度の図書館運営協力会からいただいた提言がございまして、こちらは7割実施済みとなっています。

このように図書館は2つの委員会から既に様々な提言をいただいております。これらの提言をご参考のうえ、御意見をいただければと考えております。

### (3) 「生涯学習」に関する事業実績等について

#### ●事務局（社会教育係）

生涯学習の分野についての事業実績について報告いたします。

お手元に平成28年度の事業実績、市民講座や市民カレッジのちらし、平成29年度の

事業予定をお配りしています。  
平成28年度の事業実績としましては、市民講座を8講座開催しており、105名の登録者がおりました。  
市民カレッジは4回の講演会と1回のバス見学を実施しており、のべ140名の参加者がおりました。  
男女共同参画事業としましては、埼玉県の嵐山町に女性リーダー養成研修として2名を派遣しました。  
男女共同参画づくり講演会は、大岩真由美さんを講師に迎えて70名の参加者がおりました。  
札幌市で開催された女性パネル展は市バスを利用して20名の参加。  
パネル展を3月にカルチャーセンターで開催しました。  
長生大学は伊達と有珠でそれぞれ21回の学習日を用意しており、伊達で247名、有珠で15名の学生が登録されております。  
マイプランマイスタディ事業について、昨年は4件の実施があり参加者は207名となっております。  
市の職員が講師として実施する宅配講座については、102回の開催で3,303人の参加実績がありました。  
以上で、生涯学習に関する事業実績についての報告となります。

●事務局（図書館業務係）

お配りしている、伊達市立図書館に関する資料に基づいて説明いたします。  
4. 地域文庫について、図書館で普段は貸出・閲覧を行っていない書籍について半年に一度250冊の入れ替えを行い巡回している事業となっております。開設している箇所が、市内5カ所となっております。  
5. 他館相互貸借についてですが、伊達市立図書館に蔵書されていない書籍のリクエストがあった場合に、他図書館から借りて利用してもらう事業であり、昨年度は639件の利用がありました。  
6. 図書館ネットワークサービス広域化事業であります。伊達市・室蘭市・登別市の3市の図書館での相互の貸し借りの事業として、利用総数が20,123件でありました。また、返却を他の2市で行った場合を含めた総数は6万件を超している状態です。  
7. 事業・行事イベントですが、ブックスタート事業、ブックスタートステップ事業、絵本の読み聞かせ会、おはなし会、小学生のためのお話会、については各ボランティア団体の協力で実施している事業等になります。  
以上、図書館に関しての報告となります。

【質疑・意見交換】

□委員

放課後子ども教室について  
今年度から伊達西小学校で始まった放課後子ども教室の登録人数について教えてください。  
また、次年度以降の対象校の拡大についてお聞かせください。

●事務局

事業開始当初の登録人数は75名です。全校生徒の約2割程度の申込数となっております。  
来年度以降、最終的には全小学校に広げていきたいと考えておりますが、具体的に次をどの小学校にしようかというのは検討中であります。

□委員

放課後子ども教室について  
各学校で、放課後子ども教室のようなことを、いまずぐ実施することはできない

のでしょうか。

●事務局

順次、実施校を増やすことを考えておりますが、一度に沢山の学校を実施することは難しいと考えております。毎年1校程度ずつ増やしていければと考えておりますが、次の予定校は未定であります。

□委員

以前、黄金小学校において、児童・保護者・老人クラブ・民生委員とでパークゴルフをしたり、餅つきをしたりしていました。各学校がこのような取り組みを行っていくことも良いかと思うのですが。

●事務局

放課後子ども教室の説明が不十分で申し訳ございませんでした。放課後子ども教室は「学習の日」と「遊び・交流・体験の日」がございまして、市として、どちらかといえば「学習の日」に力を入れて実施しております。

委員のご意見については、各学校で立ち上げたコミュニティスクールがうまく機能するようになれば、各学校において活発な活動になるのではないかと思います。

□委員

放課後子ども教室について

学年ごとの登録者数はばらつきがあるのでしょうか。

●事務局

5、6学年は非常に少ないです。クラブ活動やスポーツ団活動、塾などに参加しているからではないかと推測しています。

伊達西小学校については3学年の児童数がもともと多いことから、3学年の登録者数が30名程度と突出して多くなっています。

1、2学年もそれほど多くは登録されていない状況です。

□委員

女性リーダー研修について

参加者について、以前は4名程度参加していたが去年は2名の参加となっておりますね、参加者を集めるのが大変との話を伺っているのですが、先ほどの事務局の説明では、市民講座や長生大学など女性の参加者が多いとの報告がありましたので、潜在的参加希望者がいるような気がします。

■部会長

事業に参加した人が、市民に対して何らかの報告や周知を行うことも事業を広めるうえでは有効かなと思います。

●事務局

女性リーダー研修についてですが、市の予算では3名分を計上していますが、去年は3名に満たずに2名での参加となっております。

参加された方の報告については胆振教育局が主体となって、事前と事後に登別市にて研修が行われたり、報告会を開催しています。また、あまり人目にはつかない冊子（胆振管内社会教育共同事業報告書）ではありますが、レポート報告なども行っております。

補足ではありますが、以前この事業は3市合同開催で行ってございましたが、参加者数の確保などの観点から、内容は変わらないのですが平成27年度からは胆振教育局主催の事業として参加しております。

日数についても、2泊3日と3泊4日の案はあるのですが、家を空けることについての考え方も人それぞれであることから、なかなか難しい状況です。



□委員

女性リーダー研修について

実際に参加している方は50～60代の方が多いと思っておりますが、この研修には是非若い方が参加し、研修の成果を働いている職場などで発揮してほしいと思っています。

仕事を持つ若い方の参加状況はどのような感じでしょうか。また、どのような募集方法を行っているのでしょうか。

●事務局

広報誌にて募集を行っておりますが、仕事をされている方が休暇を取ってまで参加するような状況には至っていない状況です。

□委員

女性リーダー研修

働いている方の参加を促すために、企業の経営者の方などに働きかけることで、従業員の方が参加できるようにするのはどうでしょうか。やはり、若くて向上心のある方が参加された方が、まちづくりにも繋がっていくような気がします。

●事務局

経営者の方に働きかけることについては、有効なことだと思いますので、提言として頂戴したいと思います。

■部会長

事業参加者を募る方法としてPRについて考えることや、積極的に若い人に参加して頂けるような方策を検討することは提言としたいと思います。

進め方なのですが、ある程度内容を区切って意見を頂いた方が良いかと思っております。市民講座・市民カレッジの件で、意見がある方はいらっしゃいますか。

□委員

市民講座について

1講座あたりの回数が多いのではないかと。

●事務局

市民講座は、講演会のような1回で終了するような座学ではなく、複数回行うことで、ひとつの事柄を学ぶような事業となっております。

複数回おこなうことで、作品を作りあげるとか。文学などについて深く掘り下げて学んでいくために、複数回の事業を実施しています。

回数や受講者数については、講師の方と協議のうえ決定しています。講師によっては、あまり多いと細かなところまで目が届かないことから、少人数で実施したい希望があったり、道具を使用する場合については道具の数が必然的に受講者の上限になったりします。

□委員

市民講座について

先ほどの事務局からの説明において、女性と年齢層の高い方の参加者が多いこと、市職員が当日の準備等を実施していることで、昼間の時間帯での開催ということを伺いました。

例えば、参加者受付などはこれまでどおり市の方で行っていただき、当日の運営については、市民の方や講座事業に関して沢山のノウハウを持っている民間業者に委託するなどして、仕事をしている世代や男性が参加しやすい夜間などに講座を開催できるような体制づくりは出来ないのでしょうか。

●事務局

市民カレッジについては、各講座が1回のみであることから、土・日や夜間の開催なども行っております。

市民講座については、1講座当たりの実施回数が多いことや、準備などについて市職員が担当していること、また講師される方の希望などから平日昼間の開催が多い状態になっております。

しかしながら、現在直営で実施している市民講座については、必ずしも直営でなくとも実施可能であること、更に言えば民間等において事業を実施した方が市民のニーズに答えやすいということを確認しております。

先ほどの課題でも触れておりますが、現時点でのカルチャーセンターの指定管理業務はほぼ貸館事務の状態であります。カルチャーセンターの指定管理者が、施設を利用して市民講座のような事業、いわゆるカルチャースクールのような事業を実施することは十分可能だと思っております。

多種多様な講座に関するノウハウを持っている民間事業者や、メセナ協会のようなNPOなどの力をお借りして事業実施することについては提言として頂戴したいと思います。

□委員

市民講座について

私は、市民講座のチラシとかを見て、「面白そうだから参加しようかな」と思っても、開催している時間を見た瞬間に「これは仕事だから無理だ」となり、参加できない状態です。

せっかく市民講座で興味深く、様々なことを実施していますので、事務局の回答して頂いた方向で実施することになれば非常に嬉しいなと思います。

□委員

市民講座について

これらの講座は、役所の職員が企画しているのでしょうか。

●事務局

現状としては市の職員が、頭を悩ませながら企画しております。市民の方から「こんなことを実施してほしい」といったリクエストを頂戴することで、従来思いつかなかった分野を開拓したりすることができますので、事業を企画する方法として検討に値すると思います。

■部会長

それは、市民が数人集まって検討会を開いたりする方法でしょうか。

●事務局

いろいろな方法がありますが、個人の立場で「こういうことを学びたい」「こういう講座があったら受講してみたい」といった率直な意見・要望などを、直接伝えてもらう方法が良いかなと思いました。リクエストを頂戴する方法は、すぐには思いつきませんが、直接電話を頂いたり広報紙を利用する方法なども考えられると思います。

□委員

市民講座について

午前中の講座が多いとのことですが、午前と午後の2回開催することは難しいのでしょうか。

●事務局

講座の回数・日程等については、講師の方の本業との兼ね合いなどに基づいて調整しております。

補足ですが、直営で事業実施していることから、蓋を開けたら非常に人気のある講座であったとしても、年度中に再度開催するようなことができません。これが民間であれば、人気のある講座について追加開催といったようなプログラムを組むことも可能だと思います。

市直営の事業では、そういった柔軟な対応ができないことがデメリットと言えます。

#### □委員

市民講座について

私は市民講座というものは継続性が大事だと思います。そのような講座を受講した人が、いずれ講師となって市民講座において事業を行えるようになれば、と思います。繋がっていけるような事業になれば素晴らしいですね。

#### □委員

市民講座について

同じ講座を受講した人が、講座終了後自主的に集まってサークルのような活動を行っていることを耳にしたことがあります。

私は、市民講座として継続性についてまでの取り組みは考えなくても良いと思います。あくまで、興味のある講座に参加出来ればよいと考えます。

私としては、市民講座等を夜間や休日を実施することで参加者が増えるのかどうか、また、男性の参加が少ないというのであれば、男性受けしやすいメニュー選定や日時設定、男性限定の講座を開催するとかして、参加しやすい環境を整えるのも大事だと思います。

それと、市民の方からの講座に対する要望の受け皿も整備しなければならないと思いますので、方法について模索や検討して頂ければと思います。

#### ●事務局

アンケートについては、市民講座の最終日に毎回記入して頂いております。その中の項目に、「実施してほしい市民講座について」もあり、記入内容を参考にしております。

ただ、傾向として、市民講座を受講される方が内容によっては固定化されている部分もあり、アンケート内容も同様となります。

男性が参加したい講座、若い人が参加したい講座などのニーズを探ることが非常に大事かつ難しい作業と考えておりますが、この部分が一番大事な部分でもあると考えております。

また、男性限定の講座についても、ご意見いただいた方法は検討に値する内容だと受け止めます。

#### ■部会長

次の事業に進めていきたいと思います。

平成28年度実績の2ページ目、女性リーダー研修から宅配講座についての質疑・意見等がありますでしょうか。

長生大学なんかは、先ほどの説明では新しく入ってくる方が少ないとのことでしたが。

#### ●事務局

長生大学については、一般的にどうしても65歳以上は高齢者というような一括りの考え方をしてしまうのですが、65歳のから見ると85歳の方は20歳も年上ですし、逆に85歳の方から見れば65歳の方は20歳も下の若輩と感ずるかもしれないのです。

ですので、65歳になったからといってすぐに長生大学に入るのは若干敷居が高い

というか、「まだまだ早い」と思ってもらっしゃる方もいるのではないのでしょうか。そのようなことから、どんどん平均年齢が上がっており、現在は78歳位になっています。

また、長生大学においても男性の比率が低い状態となっております。

□委員

長生大学について

有珠がどんどん少なくなっているとのこと、更に大滝の方もなかなか参加できない状態とのことですが、逆に大滝に長生大学があった方が良いとか、バスを出すとか、といったことは考えていないのでしょうか。

●事務局

長生大学でも大滝の方がほとんどいない状態です。社会教育といった観点からいいますと、大滝の方が参加できない状態は憂慮すべきと考えています。

有珠についても零細であることから、今後のことについて考える時期に来ていると思っています。有珠長生大学の成り立ちなど、詳細について調べており、40年ほど前に有珠地区から要望があって現在のような形になったようです。その頃は有珠地区の学生数も相当いたらしいのですが、現在は14名程度であちこちで小中学校が統廃合するような時代ですから、ひとつにすることも考える必要があるのかなと思っています。

大滝の人口が少ないことから大滝地区に長生大学を新設するか、ということになりますと、それもまた難しいと考えております。しかしながら、通学手段の確保は考えなければならないと思っておりましたので、そのような意見を提言として頂戴したいと思います。

■部会長

他に意見はありませんか。といいいますか、まだ図書館が控えておりますので、そろそろ図書館の部分に入りたいと思います。

□委員

図書館について

自分も知らなかったのですが、大滝分室は夜の9時まで開室していることにびっくりしました。むしろ伊達本館の方が早い時間で閉館となってしまっていて、開館の延長はニーズがあると思っています。図書館あり方検討委員会でも、開館の延長については仕事を持っている人の利便性が高まるといった要望があったようですが、なかなか難しいとの回答だったかと思います。

状況によっては、開館時間の延長もできるのかなと思ったりするとか、実際に大滝分室ではそのようになっておりますので、伊達本館ももうちょっと延ばせるのかなと思ったりします。

この部分については、市民からの要望も上がっているかと思っておりますので、是非使いやすい施設となればと思いました。

●事務局

大滝分室については、基幹集落センターの管理委託を社会福祉協議会によって行っている一環で、図書館分室業務も基幹集落センターの開館時間と同じ時間帯で行っている状況です。

ですので、本館とは管理状態も異なることから同じように考えることは難しいです。

今回は、提言を受けるといことですので、出来る・出来ないは別にして、そういった意見が出されたこととして受け止めたいと思います。

□委員

大滝は基幹集落センターが空いているから、ついでにと言っはなんですが、開

室している状態ですよね。

図書館はそのような発想で運用しているところも多いような気がします。一例ですが、釧路は新しいビルの4階から上を賃貸して運営していたりしています。図書館はいずれ建て替えの計画が出てくるかと思いますが、その時にはいろいろな手法を用いて市民にとって使いやすい図書館になることを強く思います。と、いったことを一意見として述べさせていただきました。

■ 部会長

図書館については、あり方検討委員会などでも同様の意見が出ておりますが、この会からも提言としたいと思います。

□ 委員

図書館について

私も時間延長についてはお願いしたいなと思います。利用者も増えると思いますし、勤務終了後に図書館に行くのはなかなか難しいです。可能であれば、開館時間を延長して利用者が増えて、賑やかな図書館になってくれればうれしいです。

● 事務局

参考までにお伝えします。平成26年度に4か月間、試行で7時まで延長開館を実施しました。結果として、利用者が非常に少なかった実績があります。そのようなことから、本館の時間延長の議論がその時点で無くなっている現状があります。最近でも苫小牧の図書館、ここは指定管理者制度で運営しているのですが、館長と話をしたところ、夕方の6時から7時の時間帯の利用者がかなり少ないとのことでした。それが、8時・9時と伸びていけば累積の利用者は増えるのですが、費用対効果などを考えると苫小牧市と比べて人口が少ない伊達市では難しいかなと感想を持ちました。

□ 委員

図書館について

子供たちの「図書離れ」が言われてきておりますが、伊達市における状況はどのような感じなのでしょう。

また、小さいうちは本を読んだり、図書館に行ったりしているけれど、大きくなるにしたがって、疎遠になってしまったりするという話をよく聞きますが、そういった傾向はありますか。

● 事務局

昔に比べれば、利用者数は微減です。ただし、少子高齢化の進行度などから考えれば、決して悪くない状態だと認識しております。

保護者自身が本好きな子供さんは本をよく読む傾向にあるようです。昨年ライオンズクラブから「読書通帳」を寄贈して頂きました。所謂、読書ノートなのですが、100冊読んだら図書館長の表彰状が貰えるといった物ですが、昨年の10月から始めて到達者は5名ほどいらっしゃいます。

図書館では様々な取り組みを行って、子供の読書環境の整備などを進めております。

中学生・高校生になりますと図書館にも来なくなったり、本もあまり読まなくなったりする傾向はあるかと思えます。理由としては、時間が無いということが挙げられると思えますし、全国的な傾向と認識しております。

□ 委員

私は以前、本を作っている仕事をしていました。活字離れが進んでいるのは仕方がないことかと思っております。本が大好きで読んでいる方は限られていて、趣味の世界の領域だと思えますので、致し方ないかなと思っております。

とはいっても、増やすことは大事だと思っております。いま、図書館で人が入って

いたり盛り上がっていたりしているのは、むしろ「居場所づくり」なのかなと感じております。東京の武蔵野の駅前ビルに図書館が入っていて、その地階は 21 時までは 20 歳以上の人は入れない、未成年のみのスペースとなっていて満席です。そこでは宿題したり、集まって勉強したりしています。蔵書数は図書館として大事な部分ではありますが、今求められているのは「居場所」なのかな、と思います。先ほど事務局の方から「時間延長を試行してみたけれども利用者数が増えなかった」、とありました。本を借りに行く人もいるでしょうけれど、知り合いの若い経営者の方と話をすると、「資格の勉強をしたいけれども、市内では勉強をする場所がない」という方もおります。喫茶店も早く閉まってしまうし、家だと落ち着かないから静かな場所を求めた時に、そのような場所が無くて「図書館が空いていたら良いのにね」なんてことも聞いたことがあります。意見と言いますか、思ったことを話させていただきました。

■ 部会長

図書館が居場所としての機能について意見を頂きました。

他に意見はありませんでしょうか。良い時間になってきたところでもありますし、そろそろ、第 1 回目の会議を閉めたいと思います。

次回は 7 月 26 日（水）に芸術文化の部門を行います。

● 事務局

本日、いくつか意見を頂いております。頂いた意見などについての趣旨の部分について、部会長と相談のうえ、第 4 回目の会議の際に委員の皆様に提言書として提示したいと思っております。

本日はお忙しいところありがとうございました。

(4) その他

【特になし】

5. 閉会（生涯学習課長）